

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2171500321
法人名	有限会社 ケア・コスモス
事業所名	グループホーム ほのぼの
訪問調査日	平成 20 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 30 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2171500321
法人名	有限会社 ケア コスモス
事業所名	ほのぼの
所在地	中津川市千旦林字辻原 2111-2 (電話) 0573-68-8067

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町 110		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年4月30日

【情報提供票より】(20年 2月18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100000	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1100 円			

(4) 利用者の概要(2月 18 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	6	名
要介護3	2	名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中津川市民病院 笠木医院 あかさか歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム開設以前に訪問介護・居宅介護支援事業をしており地域とは馴染みの関係がある。広い天空にゆったとした時間の流れと、全職員が寄り添う暮らしを心がけている。開設者の育てた一抱えもする2本の大黒柱・太い梁・自然光を取り入れた民家風の建物で大きな窓からは南アルプスや恵那山が望め自然豊かなホームである。経験豊かな施設長・管理者(看護師)と年配の職員は、元気の基となる食事にこだわり旬の山菜や食材を散歩を兼ねて採集し、懐かしい調理・味付けで一緒に作りその人らしいくらしの実現に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で改善課題として運営理念の啓発が指摘された。全職員で検討し自治会の常会に進んで参加したり、認知症サポート養成で認知症の理解を促し、ほのぼのたよりを発行し家族や地域に向けホームの理解や協力を発信している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を玄関におき公開している。前回の評価結果は謙虚に捉え、今回の自己評価は更に「たより」の作成担当者をきめるなど具体的な計画をたて、地域と関わりを深める取り組み意向である。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	<p>運営推進会議は3ヶ月に1回夜間開催で参加メンバーが活発に意見交換している。次年度に向けて2ヶ月に1回開催し参加メンバーに介護相談員を入れてより地域密着したホームの役割を多機能的に考えて行く方向である。また市町村担当者とも情報交換し連携を図る考えである。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	<p>家族会がある。利用者の暮らしぶりは頻回な訪問時や書面・電話で報告し、職員は常に話しやすい雰囲気を作り苦情や意見の把握に努めている。家族会を活かし運営推進会議に提案したり運営にサービスに反映している。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会に加入し積極的に常会に出席している。地域密着を意識し、ホームは共に暮らす住民としてその役割や協力を話している。祭礼に参加したり、老人会の招待を受けたり、散歩時に挨拶を交わし、地主の協力で畑や作物をいただいている。中学生の体験学習を受け入れたり、夜間災害の協力を促している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を「隣に座る」「その人を知る」「ゆっくりと穏やかに」を掲げ、日常家庭的な環境の中で実践している。しかし厚労省制度改正により、地域との関係性が重視されるようになり、職員にも再認識し地域密着の現状にあった理念に作り変えていくことが求められる。		契約書等重要な書類に「地域住民との交流の下で」の言葉を挿入し、全職員を交え現状にふさわしい理念に作りあげていくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・居間・事務室等目に付きやすい場所に掲示し、日常ケアの中で確認しながら取り組んでいる。職員間で気づく時はお互いに注意合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し積極的に常会に出席している。地域密着を意識しホームは共に暮らす住民としてその役割や協力を話している。祭礼に参加したり、老人会の招待に出かけたり散歩時など近隣の人たちと挨拶を交わし、地主の協力で畑や作物をいただいている。中学生の体験学習を受け入れたり、夜間災害の協力も促している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を玄関に置き公開している。又全職員で周知改善に向けて、具体的(たより作成等)に計画立てて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回夜間に開催している。要望のホーム裏の樹木が伐採され日当たりがよかった。次年度は年間計画を立て2ヶ月に1回の開催と介護相談員等の参加も検討している。		次年度より参加メンバーの充実を図り、ホームの向上や地域に密着したホームの役割を多機能的に考えていることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村より介護相談員の派遣を受けている。地域ケア会議に出席し情報交換や担当者とは制度や書類の相談や指導を受けサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態や暮らしの報告は、頻回な訪問時や書類、電話で知らせている。遠方の家族にはFAX交換している。変化にも即刻知らせ情報を交え安心を得ている。金銭は立替払いで月末精算している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がある。職員は常に話しやすい雰囲気を作り苦情や意見の把握に努めている。家族会を活用し運営推進会議に報告したり運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は避けるよう心がけている。利用者の混乱を防ぐ配慮として、理念の「隣に座る」を活かし安心を得るよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術・服薬管理など社内研修とあわせ社外研修の情報を知らせたり、段階に応じた学習の協力(出張扱い)をしている。しかし学習の習熟度は立場や経験によって差が生ずることもある。職員一人ひとりの力量に合わせた研修体制が求められる。又応急手当・緊急対応の学習を課題としている。		限られた職員体制の中でケアに支障をきたさない研修機会の確保を全職員で話し合い、利用者の尊厳を再度確認できることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の地域ケア会議に参加し意見交換したり、グループホーム協議会に加入している。運営推進会議の見学・音楽療法の見学と相互訪問の機会を作り質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談の段階で、本人・家族の話聞き情報収集をして本人にとって一番よい方法を考え、より本人を知る為の体験入所に繋げている。体験入所中は家族の訪問や協力と職員や利用者との馴染みを深める工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>散歩時、道端の草花や山菜を見て教えられ、歌を歌いながら感極まって泣く利用者に肩を寄せ慰めながら思わぬ一面を知ること共に過ごす関係を深めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声かけや表情から思いを把握したり、意思疎通が困難な場合は入浴時・夜勤時など向き合えより添える環境を作って検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族にアセスメント表を渡し、本人の生活歴・趣味・希望など可能な限り記入してもらっている。家族の意向・主治医の意見を取り入れ職員と一緒に介護支援専門員が作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月を定期的に利用者・家族・整形外科・主治医の意見・指導助言また介護記録や職員の意見を入れて見直している。遠方の家族には電話・FAXで確認したり、健康の変化や異常時には即刻検討見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合の悪い場合の受診の代行対応している。ボランティア訪問時に合わせ、ほのぼの1・2号の往来で情報交換・交流している。認知症サポーター養成や「しあわせ会」に参加して「からすみ」「こんにやく」づくりをしているが、ホームを会場にし更に交流の拡大の意向がある。宿泊の準備もある。		利用者・家族・地域住民の参加を呼びかけホームの多機能性を活かされることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望のかかりつけ医の継続受診をしている。家族が同行する受診を基本とし、かかりつけ医との受診結果の情報伝達は共有できるよう看護師が確認し薬の管理も支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時に家族の意向を聞いている。入所後利用者には折に触れ話し合ったり、段階的に利用者・家族の安心と納得が得られるよう繰り返し話し合いをしている。主治医とは24時間365日連携ができ家族の泊まり看取りも可能である。看護師が2名在中しているが職員の重度化対応教育が今後の課題である。		終末期の対応指針を看護師はじめ全職員に周知することが求められる。ホームとしての方針の統一を図り医療機関と密な連携を図り、具体的な職員教育に期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の同意書を交わし漏洩防止に努め書類は事務所に保管している。利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて日常職員間で意識し注意合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手紙を書く・朝寝したい・受診で外食したり・昼食を残しておいて暖め直して食す・買い物に行くなど、無理強いないせ利用者一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるよう、季節(わらび・蓬)や馴染みの食材・献立にこだわり、下準備から後片付けまで一緒にしている。なじみの茶碗・湯のみを使い仲良し同士の席で笑い声が聞かれる時間である。朝食は粥にしている。使用の米「こしひかり」は社長が収穫したものである。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は週3回冬場は週2回を基準に入浴をしているが、希望にあわせ毎日も可能である。入浴時間は個別対応の時間として大切に考えたい。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯・掃除・調理などそれぞれの役割が自然にできている。百人一首の読み手・散歩の先導役など楽しみながら気晴らしにもつながっている。ただ一人の男性には自然に男性ならではの役割ができている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	静かな自然の中で散歩を兼ねて、近くの観音様参り・野菜取りに・山菜(蓬・土筆)とり・ベンチに座わり恵那の山を眺めたり外気に触れる工夫をしている。又冬場は東海道地図を見ながら、宿場を確認しながら廊下を歩く工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることが利用者心理的な不安・閉塞感・拘束になることを職員はよく理解しており、昼間の施錠は一切していない。すべて開放し職員の見守りや地域住民の協力が確立している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的にマニュアルに基づき訓練(消火・避難)を消防署の指導で実施している。連絡網を作り、自治会の常会で話したり、運営推進会議でも地域協力を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の残菜・尿の濃度などで摂取量・飲水量の確認をしている。利用者の好みを聞き、地産の食材で献立表を確認して職員がバランスよく調理している。看護師が服薬や異変の指示に対処している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一抱えもする大黒柱が2本、太い梁、天井には3つのファンが換気し自然光を取り入れた民家風のホームである。中央に広い居間(食堂・台所)に椅子・ソファ・床に座るなど利用者の思い思いの居場所で過ごしている。大きな振り子時計・社長の趣味の版画・地域住民からの装飾品・利用者手作りの折り紙雑飾りで季節感や生活感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥・仏壇・家族の写真・生花・ワゴンに書類(手紙・便箋・ペン)をベットサイドに置き、家族と一緒に居心地よく過ごせる工夫をしている。お気に入りのパズルの絵画を目線に飾っている。		